

III



海竹山竹

With Atsuya Okuda played Jinashi nobe Shakuhachi

tales of bamboo
surroundscape



III

UNAHQ-4003

サウンドスケープのコンセプト

Mick Sawaguchi (有) 沢口音楽工房 代表
UNAMAS-HUGレーベル

サウンド音響といえば、映画や音楽特にクラシック等で多くの作品が制作されてきました。私は1+1で3以上になる可能性を探求し、その結果音楽とそれ以外の音全般がコラボすることで作り出される表現力として、自然音とのコラボレーションにひとつの解を見だしています。環境音や自然音もダミーヘッド録音やステレオ音源で多くのアーティストが取り組んで来ていますが、私は、同じ音源でもサウンドで明確な音場を捉えた場合、その表現力は2チャンネルを超えた無限大の力を感じます。なにより心地よさを感じるのです。

まさに自然が持つ大地と空の力です。この力と楽器や声をコラボし、且つ、サウンドという表現領域を用いれば「人のリズムではなく自然のリズムを味わう空間」が出来上がります。大地の呼吸と私たちの呼吸が一体となると、安らぎや目覚め、他者への愛といった大きな心が目覚めることに気付くでしょう。こうした考え方を発信するために、サウンドスケープというジャンルを作り、これまでイタリア文化会館をはじめコンサート形式で発信してきましたが、今回HD配信に意欲的に取り組んでいるクリアトhamsから、96KHZ24BITのサウンドソフトとして発信することにしました。

PC-AUDIOの新たな楽しみとしてこのサウンドスケープをお楽しみください。

2011-4記

海竹山竹—tales of bamboo

1. 海竹 Bamboo by the sea (20:00)

法竹曲名：手向 (Tamuke)
虚鈴 (Kyorei)

2. Evening call (20:00)

法竹曲名：別伝・鹿の遠音 (Betu den Shika no Tone)
本手之調 (Honte no Shirabe)

3. 山竹 Bamboo by the hill (20:00)

法竹曲名：吾妻獅子 (Azuma Shishi)
虚空 (Koku)

surroundscape

サラウンドスケープ デザイン制作

Mick M.Sawaguchi

1948年別府市生まれ、1971年から2005年までNHKにてドラマのミキシングエンジニアとして芸術祭大賞や放送文化基金個人賞、ギャラクシー賞、IBCノンブルドール大賞、イタリアパチカン希望賞など受賞作を担当。

2005年以降は、1985年から開発を始めたサラウンド音響による表現を高める為に、サラウンド寺子屋塾を開設し、自ら沢口音楽工房を設立。国内外でテーマを設定したサラウンドによる自然音を収録しそれにふさわしい音楽と響きあうことで「サラウンドスケープ」という新たな表現領域を開発している。

これまでに、イタリア文化会館でのダンスと音楽とのコンサート「則天去私」をはじめ、オペラシティでの現代音楽「ACTUAL ENTITY」尺八とサラウンドスケープ、また邦楽のアーティスト集団ゆらびの会や舞台講演でのサラウンドデザインを担当。永年のサラウンド研究に対し、AES FELLOW SHIP/ IBS FELLOW AWARD/ABU BEST PAPER / JAS音の匠 / AES JAPAN AWARDなど個人賞も多数受賞し、韓国、中国、シンガポール、インドなど各国にも招聘されサラウンドワークショップを開催、海外からはサラウンドSHOGUNと呼ばれている。現在は、東京藝術大学音楽環境創造科、東京テクノロジーコミュニケーション専門学校、名古屋芸術大学で、非常勤講師としても後進にサラウンドデザインの普及を進めている。



奥田 敦也 ATSUYA OKUDA

1945年生まれ。

JAZZ Trpとして1965年から20年活動後、独自の音世界を構築すべく日本古来の「法竹」(Jinashi nobe Shakuhachi)に無限の可能性を見だし研鑽、現在に至る。

1985年 東京都国分寺市に自らの修行と指導の場として「禅茶房」を開設。

2003年より、スイス/オーストリア/カナダ/アメリカ/イギリス/フィンランドなどで公演やワークショップを精力的に行う。自然な竹から生まれる法竹の魅力に引かれた弟子は海外からも多くが禅茶房の門をたたいている。自然の竹をそのままに楽器として演奏するには高度な技量と精神性が求められ余分なものをそぎ落としていく「禪」の思想と共鳴する。1992年に死去した「わたずみどうそ」の精神性を唯一受け継ぐ法竹奏者である。

2002年 CD「禪の音」で文化庁芸術祭参加。

従来の録音では飽き足らなかったため録音を断念していたが今回Mick Sawaguchiの提唱するコンセプト「サラウンド スケープ」という新たな表現と音響品質に共感し、コラボ作品が誕生することとなった。

自然に近い楽器といえる法竹には、古来より日本人に慕われてきた「遠音(とのおね)」の響きがあり、不思議なものでゆっくりとした音の立ち上がりや、極めて細く小さい音でもけってそれが消えることは無い力を持っている。

今回Mick Sawaguchi氏の提唱するコンセプト「サラウンド スケープ」という新たな技術表現と、私の法竹がコラボレーションすることで、各々が相乗効果をもたらし、「遠音」が顕現されたことに、驚きと喜びを感じている。





192-24BIT録音

解説 by Mick Sawaguchi UNAMAS HUG

192-24

今回は、法竹という尺八の原型(地なし延べ管尺八)を192KHZ-24bitサラウンドで録音した。演奏の奥田敦也氏が発する音は、まさに気配に近く、時に息を潜めときに空気が噴出するダイナミックレンジの広さが特徴でエンジニアには、挑戦的な楽器である。最良の演奏環境をスタジオの中でどう構築するかを優先に検討し、結果日東紡AGSの改良版を前日制作していただき空気の波動を録音することができた。後は、いつもの機材選定で、今回は、Microtech Gefell UM-900とリボンマイクR-122をメインにサラウンドマイクは、CO-100Kという組み合わせでPYRAMIX DAWへ収録した。

その為に用意した機材は、以下のラインナップである。

マイクフォン： Microtech Gefell UM-900
Royer R-122 Sanken CO-100K,
マイクプリアンプ： SSL 9000J
オーディオインターフェース： RME Fireface UC
DAW： Pyramix Native+MacBook Pro
電源アースノイズ対策： Soundnite
スタジオ音響調音： Nittobo AGS Sound Diffusing Absorber



Recording： 24 April, 2011 at 1st Studio, Onkio Haus
Mixing/Mastering： Mick Sound Lab
Producer/Engineer： Mick Sawaguchi, Sawaguchi Ongaku Kobo Ltd.



Produced by
沢口音楽工房 Mick Sawaguchi

Produce/Engineer by Mick Sawaguchi SANKEN CUW-180 SONOSAX SX-R4 PYRAMIX 6.1and サウンドナイト

〒180-0012 武蔵野市緑町1-2-13 TEL:0422 (53) 8021 UNAMAS:0422 (36) 6252

e-mail: mick-sawa@u01.gate01.com HP: <http://www.unamas.jp/>

Photo : Mick Sawaguchi Design : 大山勝美デザイン室

Illustration : 下村渚